

研究紀要

# くらしをひらく子ども

— より豊かな学びの姿を求めて —

(3年次)

2002

島根大学教育学部附属小学校

# 教育研究の視点

## —序にかえて—

附属小学校の研究協議会は、今回で50回を迎えました。第1回の協議会は、昭和22年10月、3日間の日程で、「新教育における教科経営」という研究主題で開催されました。爾来、本年の50回大会まで、その時代の教育研究にふさわしい研究主題を掲げてきました。ふりかえてみますと、この研究テーマの展開は、わが国の教育研究そのものの歩みでもありました。(くわしくは、本校発行の「附小の実践研究のあゆみ」をご参照ください。)

教育研究には視点が必要です。その研究の視点はどのように設定すべきなのでしょうか。

私は、今年の入学式で、新入生にお話のプレゼントとして、「タンポポ」(まど・みちお)という次の詩を紹介しました。

だれでも タンポポをすきです。どうぶつたちも 大すきです。でも どうぶつたちは、タンポポの ことを、タンポポとは いいません。めいめい こう よんでいます。

イヌ…ワンフォフォ ウシ…ターモーモ ハト…ポッポン カラス…ターター  
デンデンムシ…タンタンポ タニシ…タンココ カエル…ポポタ ナメクジ…タヌーベ  
テントウムシ…タンボンタン ヘビ…タン チョウチョウ…ポポポポ

子どもたちは誰でも、タンポポをすきです。でも、動物たちも好きだとは考えたことがないでしょう。まして、タンポポの好きな動物たちが、タンポポのことをどう呼んでいるか、考えたこともないでしょう。イヌ…、デンデンムシ…、ヘビ…、と順に読んでいくと、全校の子どもたちが聞き入っています。詩の力を実感するときです。

「たんぽぽ」(川崎 洋)という詩があります。タンポポの綿毛に向かってよびかける、こんな詩です。「たんぽぽが たくさん飛んでいく ひとつひとつ みんな名前があるんだ」「おーい たぽんぽ おーい ぽぽんた おーい ぽんたぽ おーい ぽたぽん 川に落ちるな」。綿毛一つ一つに名前をつけて呼びかけています。綿毛の一つ一つに名前がある、ということ、子どもたちは考えたこともありません。タンポポの季節に教室で読むと、子どもたちが大好きになる詩です。

身の回りの見慣れたものごとでも、視点を変えてみると全く新しい世界が見えてきます。この二つの詩は、タンポポが大好きということでは同じですが、視点を変えることで、タンポポの新しい世界を見出しています。教育研究においても同じようなことが言えると思います。

本校の50回の研究史をみますと、「たくましく追求する子どもを育てる」という一貫した姿勢をもちながら、10年くらいの間隔で新しい研究の視点を提示してきました。教育研究における不易(教育の本質)と流行(時代のニーズ)の視点を、50回の研究会をとおして追求してきました。来年度からは、日本の教育実践研究を発展させるために、また新しい課題に向けて歩みだします。

平成14年6月13日

学校長 足立悦男

# 目 次

教育研究の視点 -序にかえて- ..... 学校長 足立悦男

I 「くらしをひらく子ども」での子どもの学びの姿を引き出す構想 ..... 3

## II 各学年におけるちどりにいきいきタイムの実践

事 例 1 おいしい大根料理の追求を通して、自分の活動に自信を深めていく子ども .. 11  
- 1年「だいこん みんな たべちゃうぞ」の実践から-

事 例 2 身の回りの植物を生かした遊びを通して、自分の活動を豊かにしていく子ども .. 16  
- 2年「ここにもあるぞ! ~草花を見つめて~」の実践から-

事 例 3 人とのふれあいを通して、自分たちの住む松江への思いを深めていく子ども .. 21  
- 複式3・4年「名所パネルで、思い出をプレゼントしよう」の実践から-

事 例 4 スポーツを通じた出会いをもとに障害のある人のくらしに思いを寄せる子ども .. 26  
- 4年「ようこそ附小へ1 ~車いすで生活する内田さん~」の実践から-

事 例 5 人とのふれあいを通して、異文化のよさを追求する子ども ..... 31  
- 5年「世界に広げよう友だちの輪~韓国編~」の実践から-

事 例 6 人と関わりながら、ふるさとへの愛情を深めていこうとする子ども ..... 38  
- 6年「伝えよう ふるさと宍道湖のひみつ」の実践から-

## III 教科における授業の構想と実践

国 語 科 子どもが表現の価値を追求する国語科学習 ..... 43

社 会 科 子どもが自分のくらしに問いかける社会科学習 ..... 50

算 数 科 子どもが数理をつくる「活動する」算数学習 ..... 57

理 科 子どもが自ら自然を探究していく理科学習 ..... 66

音 楽 科 子どもが感じたことを豊かに表現していく学習 ..... 73

図画工作科 自分の表し方を楽しみながら追求する図画工作科学習 ..... 80

家 庭 科 子どもが自らくらしを豊かに創っていく家庭科学習 ..... 87

体 育 科 子どもが運動の楽しさを追求する体育学習 ..... 94

特 殊 教 育 自分の思いや考えを出しながら生き生きと活動する子ども ..... 101

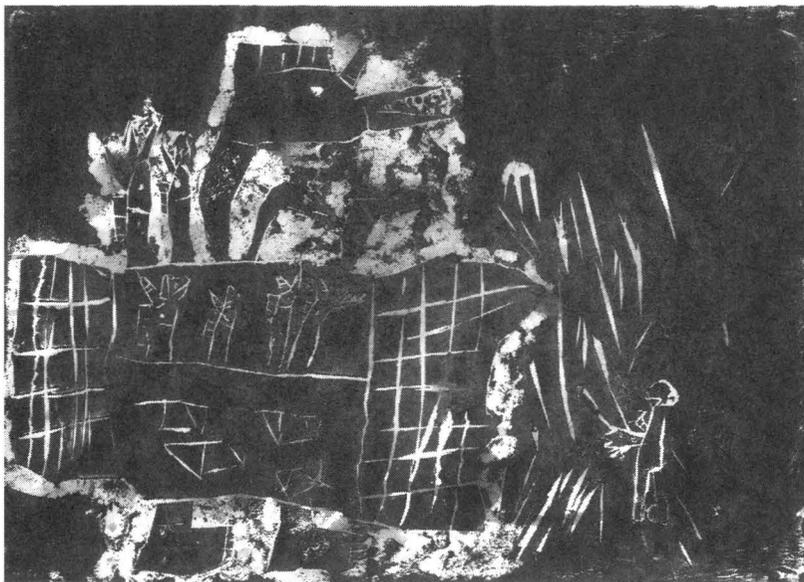
保 健 みんなでつくる児童保健委員会活動 ..... 108

おわりに ..... 副校長 恩田元穂

研究同人

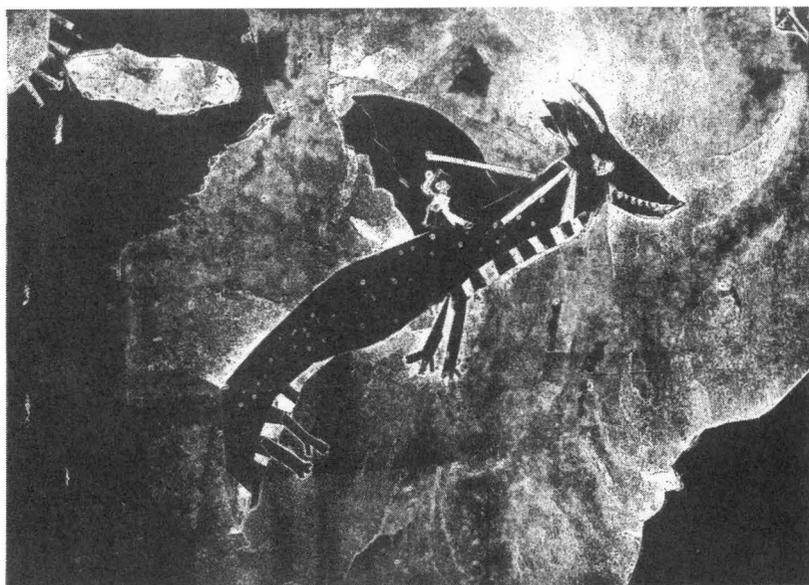
# I 総論

## 「くらしをひらく子ども」での 子どもの学びの姿を引き出す構想



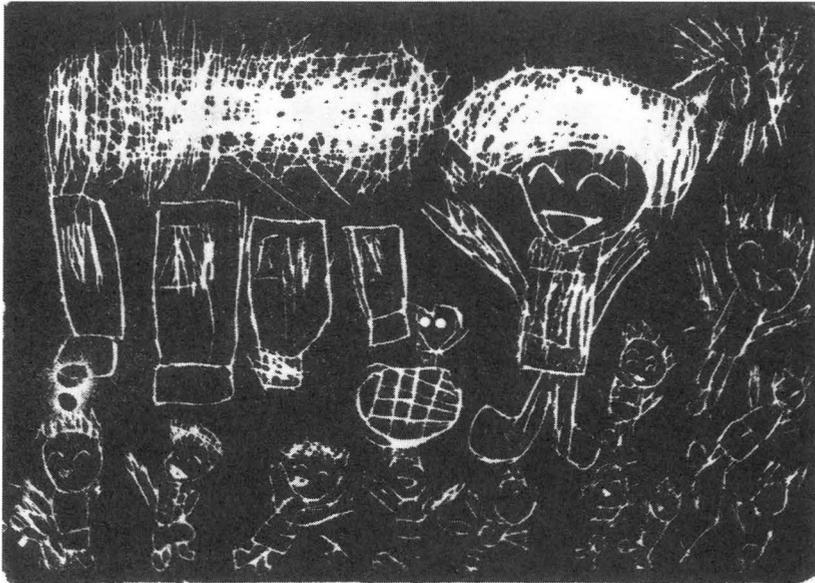
「ゆうかんなアジク」 4年 手島 悠輔

## Ⅱ 各学年における ちどりいきいきタイムの実践



「りゅうの目のなみだ」 3年 山本 リリコ

### Ⅲ 教科における授業の構想と実践



「キックターゲット」 1年 土江 慶

## お わ り に

昨年度の「学級だより」を綴ったファイルに、次のような日記が載っています。

「スカートまわり」

5・9 2年 K女

おひる休みに、スカートまわりをしたよ。スカートまわりが8回れんぞくでできたよ。とてもうれしかったよ。ほかの人が、「じょうずだね。がんばってね。」と言ってくれるから、もっとうれしかったよ。

スカートまわりをしているとき、おなかのまん中がいたかったよ。だけど、いたいのをがまんして8回れんぞくでできてうれしかったよ。

1年生のときは、2回とか3回とかしかできななかったけど、2年生になって、なんどもれんしゅうしたらできたよ。とても楽しかったよ。

いまは、すらすらだよ。

(改行・恩田)

この日記を読むと、鉄棒のスカート回りが8回連続してできた時のKさんのうれしさ、楽しさが伝わってきます。また、最後の行にある、「いまはすらすらだよ」という言葉に、Kさんのスカート回りに対する余裕さえも感じます。

「くらしをひろく子ども」を研究主題に掲げて10年目になりますが、現在は、「子どもの学び」に視点を当てた研究を進めています。この研究では、子どもが学びをつくるとは具体的にはどのような姿なのか、そのような姿をどのように求めていくのかに力点を置いています。Kさんの「スカートまわり」への挑戦は、「子どもの学び」に関わる大切なことを教えてくれます。

○この日記を貫いているのは、Kさんのスカート回りが8回連続してできたことへの喜びであり、それに向かう過程での楽しさであるにとらえることができます。そこには、友達が応援してくれた喜びもあります。私たちは、子どもが学びをつくることに関わって、まず、子どもがこのような喜びや楽しさを見つけることをめざして、授業や活動を構想することが重要になると考えます。

○「いたいのをがまんしてできた」とありますが、できるようになったのは、我慢をただけではありません。「なんどもれんしゅうした」とあるように、Kさんは挑戦する過程で、スカート回りの連続を可能にする態度や方法などを見つけたたり身につけたりしたに違いありません。私たちは、取り組みの過程で、子どもがつくる学びを丁寧に見つけ、それを子どもに返していくことが重要になると考えます。

○Kさんは、今の自分と1年生の時の自分と比べ、自分の変化を見つけていますが、私たちは、このように、子どもが自分自身の変化に気づいていくことにも目を向けていく必要があります。また、このことに関わって、「いまはすらすらだよ」というところでKさんは、(先に余裕と書きましたが)自分の成長の変化を感覚的に気づいているにとらえることができます。

○最後に、「くらしをひろく子ども」を育てていくことに関わりますが、子どもがこのような学びをつくる体験を積み重ねることが、くらしをひろく力や生きる力を身につけることにつながっているような気がしてなりません。

今年度は、サブテーマを「子どもが自らの学びをつくる授業と新教育課程」として、「くらしをひろく子ども」をめざした研究を進めていきたいと考えます。ご参会いただいた先生方と語り合う中で、ご意見、ご批評をいただき、本研究をさらに深めたいと願っております。

なお、この研究紀要は、昨年度の実践をまとめたものであることを申し添えておきます。

平成14年6月

副校長 恩田元穂

# 研究同人

(平成13年度・14年度)

学校長 足立悦男  
副校長 恩田元穂  
教頭 山崎敦史  
研修部長 奥村忠孝 高橋泰道(平成14年度)

国語 瀧 哲朗 森脇紀浩  
金山剛志

社会 奥村忠孝 吉崎朗  
福間敏之 陶山昇(平成14年度)

算数 山崎敦史 川上宜久  
常松浩

理科 高橋泰道 原啓一郎  
齋藤由美子

音楽 中村治子 中沢昌彦  
赤木寛子(平成14年度)

図工 松本真理 大野寛人

家庭科 平井早苗 伊藤ゆきな

体育 藏敷真吾 梶谷朱美  
川角朋之

特殊 勝田慎司 天野千里  
山本勉 道前正  
河村律子(平成14年度)

保健 倉石美津子

この研究紀要に収録されている授業記録は、次のような約束にもとづいて記載されています。

↓ 複式学級の低学年を表す

60C<sub>2</sub> C:児童 T:教師

↑ ↑ 児童を表す番号

その時間の発言の通し番号

---

平成14年6月 印刷

平成14年6月 発行

発行所 島根大学教育学部附属小学校

〒690-0882 松江市大輪町416-4 (TEL 0852-29-1202)

URL <http://www.chidori.shimane-u.ac.jp>

印刷所 侷木次印刷

飯石郡三刀屋町1635 (TEL 0854-45-2515)

---